科目区分：聴覚言語障害コース、授業科目：心理音響学

# 教科書に沿った授業展開では、学習意欲はどれほど高めるか？

特別支援教育講座　高橋信雄

## １，はじめに

心理音響学は、聴覚障害と直接関係する音の基本を学ぶ領域である。しかし、いわゆる音響学として講義をした場合には、難しいとか、今ひとつわからなかったで終わってしまうことが多い。そこで、専門への誘いの講義として位置づけるために、自分たちがこれから学ぶ学問領域への興味を持たせることが大切であると考えた。そのため、１昨年は、学生が自らの身の回りの音や音声の音響的な現象について、「何故？」、「どうして？」という問題意識を持ち、それらの現象を実験的に再現する中で、理論的説明を探っていくことにより学ぶ意欲を高める事を目指した。しかし、昨エンドの反省の中、教科書がないことで事前の勉強や整理に苦労したや全体像がわからないなどの点があげられていた。そこで、今年度は教科書を中心にした授業展開をすることで、学習意欲及び理解度はどの程度高められるのか取り組んでみた。

以下、今年度のアンケート結果をまとめてみる。この授業の受講生は、全員１年生で、特別支援教育専攻の６名と他専攻１名の７名の受講であった。22 年度および 21 年度の同授業の受講生各９名との比較をしてみると以下の様になった。

## １，授業への参加について

| | 23 年 | 22 年 | 21 年 |
|---|---|---|---|
| **①授業への出席** | | | |
| **90%以上** | **6** | **7人** | **8人** |
| **70%以上** | **1** | **2** | **1** |
| **②出席した授業で集中した時間の割合** | | | |
| **90%以上** | **0** | **1** | **3** |
| **70%以上** | **5** | **6** | 5 |
| **50%以上** | **1** | **2** | 1 |
| 50%未満 | 1 | 0 | 0 |
| **③授業の予習・復習時間** | | | |
| **2時間程度** | **1** | 0 | 0 |
| **1時間程度** | 2 | 5 | 8 |
| **ほとんどしない** | **4** | **4** | **1** |

## ２，授業内容について

| | | | |
|---|---|---|---|
| ④授業の目標や意義の提示 | | | |
| 提示された | 2 | 0 | 0 |
| ある程度提示された | 4 | 9 | 5 |
| あまり提示されなかった | 1 | 0 | 2 |
| 提示されなかった | 0 | 0 | 2 |
| ⑤授業への興味・関心 | | | |
| 持てた | 5 | 3 | 0 |
| ある程度持てた | 2 | 6 | 6 |
| あまり持てなかった | 0 | 0 | 3 |
| ⑥授業からの新しい知識や考え方 | | | |
| 得られた | 5 | 5 | 7 |
| ある程度得られた | 2 | 4 | 2 |
| ⑦授業の理解 | | | |
| ある程度理解できた | 3 | 4 | 3 |
| あまり理解できなかった | 2 | 5 | 6 |
| ほとんど理解できなかった | 2 | 0 | 0 |
| ⑧将来の教員や ST の基礎的な力になるか | | | |
| 思う | 4 | 7 | 3 |
| ある程度思う | 2 | 2 | 5 |
| あまり思わない | 1 | 0 | 1 |

## ３，授業の方法

| | | | |
|---|---|---|---|
| ⑨教員の話し方や進行具合 | | | |
| 適切だった | 4 | 5 | 5 |
| 大体適切 | 3 | 4 | 4 |
| ⑩質問や発表の機会 | | | |
| 十分あった | 4 | 7 | 8 |
| ある程度あった | 3 | 2 | 1 |
| ⑪板書・資料提示・配付資料の適切性 | | | |
| 適切だった | 4 | 6 | 6 |
| 大体適切 | 3 | 3 | 3 |
| ⑫課題の量と質 | | | |
| 適切だった | 4 | 5 | 5 |
| 大体適切 | 3 | 3 | 4 |
| やや不適切 | 0 | 1 | 0 |
| ⑬授業の準備や工夫 | | | |
| 思った | 3 | 3 | 3 |
| ある程度思った | 3 | 6 | 5 |
| あまり思わなかった | 1 | 0 | 1 |

## ４，その他

| | | | |
|---|---|---|---|
| ⑯自ら進んで取り組んだか | | | |
| 取り組んだ | 1 | 1 | 1 |
| 大体取り組んだ | 4 | 8 | 7 |
| あまり取り組まなかった | 1 | 0 | 1 |
| ⑰担当教員の熱意を感じたか | | | |
| 感じた | 4 | 8 | 8 |
| ある程度感じた | 3 | 1 | 1 |

⑱授業への満足

| | | | |
|---|---|---|---|
| 満足した | 3 | 3 | 3 |
| 大体満足した | 3 | 6 | 6 |
| やや不満足だった | 2 | 0 | 0 |

５，教育学部の DP について（主要関連項目のみ）

| | 23 年度 | 22 年度 |
|---|---|---|
| 知らない | 4 | 5 人 |
| 知っている | 3 | 4 |

DP 1：特別支援教育に関する確かな知識と得意とする分野の専門的知識を修得している。（知識・理解）

| | | |
|---|---|---|
| 向上していない | 1 | 0 |
| どちらかといえば向上してない | 2 | 1 |
| どちらかといえば向上 | 2 | 6 |
| 向上した | 2 | 2 |

DP 2：聴覚言語障害児，知的障害児，肢体不自由児，病虚弱児，重複障害児，発達障害児等の教育現場で生じているさまざまな教育課題について論じ、適切な対応を考えることができる。（思考・判断）

| | | |
|---|---|---|
| 向上していない | 1 | 1 |
| どちらかといえば向上してない | 2 | 1 |
| どちらかといえば向上 | 2 | 7 |
| 向上した | 2 | 0 |

DP 3：子どもの発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができ，個に応じた指導や説明ができる（技能・表現）

| | | |
|---|---|---|
| 向上していない | 2 | 1 |
| どちらかといえば向上してない | 1 | 6 |
| どちらかといえば向上 | 3 | 2 |
| 向上した | 1 | 0 |

このアンケート結果からの特徴的な点をあげると以下のようである。

①授業への参加：出席（1 名を除いてほぼ全員が 90%以上）や集中度（ほぼ 50%以上）が、予習や復習となると半数以上が、ほとんどしていない状況である。これからの専門の聴覚と関わって音の理解の大切さを初回に講義したにも関わらず、その意図は伝わっていなかったようだ。

②授業内容：ここ３年間の中で、目的や意義の提示や興味・関心は、年ごとに高まっていた。しかし、授業の理解がほとんどできなかった学生が７名中２名いたことは、今回の進め方が教科書に沿いすぎて、教科書から離れた音響事象の説明などに十分な時間を割かなかったことや実験がすくな過ぎたことが一因と考えられた。その結果は、授業の方法にも明白である。

③授業の方法：質問や発表の機会が、昨年までは「十分にあった」だったが、今年度は「ある程度あった」が半数近くになった。これは、次の７時限目の授業が６時から開始になるために、十分な時間がとれなかったことも一因になっている。また、課題の出し方にも問題があったようだ。学生に課題を出した時、ほとんどの学生は時間の直前になって取り組むことが多かった。課題に出し方をさらに検討する必要がありそうである。

④その他：残念だったのは、教員の熱意が、昨年までは非常に高く評価されていたのが、今年度はほぼ半数まで低下した。教科書のどこどこを参照して下さいで終わってしまったことが一因であろう。結果的に、学生の授業への満足度は、今までいなかった「やや不満足だった」学生が２名も出てきてしまった。

そして、DP との関連では、１年生でも DP の存在を知らない学生が半数以上いた事である。授業シラバスだけでなく、授業の合間合間で DP について述べたり、整合性を問題にすることが必要であったと思われた。DP1 の専門的知識は向上すると思っていたが、前述の状況であったので、「向上していない」とか、「必ずしも向上していない」学生が増加したことは、問題であると思われた。

今回の授業では、教員が実験して見せて、教科書の説明に終わることが多く、自分自身で実施する実験が少なかったせいか、その場だけですませてしまって、興味をそそったり、関心を深めることができなかった学生が多かった。毎回事前に教科書のどこを読んでくることと指定しておくだけでなく、記述されている事象を体験した上で考えさせ、調べさせ、その上で種々論理的に説明を加えることが必要となる。教科書に頼ることなく、話を進めることも大切であったようだ。その意味では、市販の教科書の場合、どこまで、どう利用するかをさらに検討し、授業目的と学生のレベルや興味にあった教科書が望まれる。

それらの実践が十分でなかったことが、非常に受け身的な姿勢の多さに繋がったと思われる。また、日常生活や難聴者の特性との関連を視点においた授業の展開や説明も欠かせないものと思われた。また、コメントを記述したレポートの返却等も今後の課題である

最後に、毎年DPを振り返り、学生に対して、授業の意義と目標をさらに明確にして取り組む必要があろう。